

新しいプールで

水しぶき

市立甲南第三小学校

市立甲南第三小学校で新しいプールがこのほど完成し、6月8日に竣工式が行われました。

これまでのプールは建築から32年が経過、老朽化が進んでいたため昨年からの改築が進められていました。

新しいプールは、強化プラスチック製で25メートルのコース4本のプールに小プールが併設されています。

式典には中嶋市長らが出席、引き続き待望のプール開きが行われ、プールサイドで待ち構えていた児童たちが早速水しぶきをあげ楽しんでいました。



プール開きで水しぶきをあげる子どもたち



土山宿で旅装束姿の岩本さん(右端)

元サッカー日本代表の岩本さんが 土山宿・水口宿をやって来た

東海道五十三次完全踏破



水口宿では曳山に上りお祭り気分

岩本さんは49番目の宿場町である「土山宿」で巨大な常夜灯に驚いたり、おいしいそばを食べたり、「水口宿」では水口曳山囃子の演奏を聞いたり、高さ約6mもある曳山に登ったりと、どちらの宿場町でも東海道の歴史を満喫されていました。

NHKの番組、東海道五十三次完全踏破「街道でくたく旅」のロケーションが市内で行われました。この番組は東海道五十三次の東京日本橋から京都三条大橋までの約500kmの道のりを歩いて制覇するという企画で、旅人になったのは、元サッカー日本代表の岩本輝雄さんです。6月9日(金)には土山宿から、12日(月)には水口宿からの様子がNHKBS(衛星放送)で生放送されました。

札幌市内全31会場で、6月7日(水)から11日(日)にかけて開催された第15回YOSAKOIソーラン祭りに「ござれGO-SHU!」滋賀連合チームが参加しました。参加したのは、元祖、滋賀のYOSAKOI方式のお祭り「ござれGO-SHU!」のメンバーが中心となり編成したチームで、県内各地から応募された22人の皆さんです。NPO法人ござれGO-SHUが、全国に元祖滋賀のYOSAKOI方式のお祭りを発信するために滋賀連合チームの編成を企画したもので、

舞 ござれGO-SHU! 滋賀連合チームが参加



滋賀のYOSAKOIを披露するメンバー

総勢350チーム・踊り子総数約4万5千人の中の1チームとして札幌大通りなど7会場で演舞しました。

NPO法人の田中理事長は、「踊るのが初めてのメンバーがほとんどでしたが、観衆の皆さんから拍手をいただき、楽しんで滋賀のござれがPRできました。」と話されています。今回の交流がきっかけとなり、8月5日に甲賀市で開催される第8回ござれGO-SHU!には、京都など近隣の府県からもお越しになるそうです。

体験“登り窯”に汗

信楽「陶芸の森」で80人

寄稿者 まちかど特派員 小谷 柳太

梅雨空ついで窯焚き元気。信楽町「陶芸の森」で6月10日から24日まで、窯詰め、窯焚き、窯出しの登り窯体験が行われました。登り窯は「信楽」を象徴する窯ですが、今では歴史的役割を終え、あまり用いられていません。陶芸の森の登り窯は平成2年に築造、幅4m×長さ8mで、400m³。登り窯による作品焼成の技術保存と普及を期すため毎年、体験事業を行っています。この事業にはプロの陶器業者、陶芸作家からアマチュア愛好家まで15グループ、20代から70代の約80人が参加、2000点余の作品を窯詰めしました。中には故岡本太郎氏の“遺作”を焼いた業者も。

焼成は交代で5昼夜。作品の出来上がりは様々でしたが、「もともと登り窯は釉薬ものを焼く窯。火色は問題外」とか、「一、窯。二、土。三、細工と言う。こんなもんだよ。」とも。

陶芸の森創作研修室では「アンケートの集約次第で次回も考えていきたい」ということです。



“窯焚き”は5昼夜続けられた。大きなうちわで涼風を送るシーンも再現



“ワクワク”窯出し、作品の出来に見入る人たち

山茶を摘み取られる茶業協会の皆さん



朝宮茶のルーツを探る

信楽町朝宮地区で自生した山茶摘み取り

日本五大名茶「朝宮茶」の産地信楽町朝宮地区で、6月13日、地域に自生する山茶の摘み取りが行われました。

1200年の歴史を持つ朝宮茶のルーツを探ろうと朝宮茶業協会(北田與志照会長)が企画したもので、当日は午前7時過ぎから協会の会員など約30人が参加、植林された山中などに自生する山茶約4キロを摘み取られました。

摘み取られた山茶は、加工後に信楽焼の茶壺に入れて保存、古来の手法で熟成した後、11月に開催される朝宮茶まつりで試飲されることになります。今秋の茶まつりでは、市の二大特産品「朝宮茶」と「信楽焼」による新ブランドの誕生に期待が寄せられています。



山茶を信楽焼きの茶壺で熟成